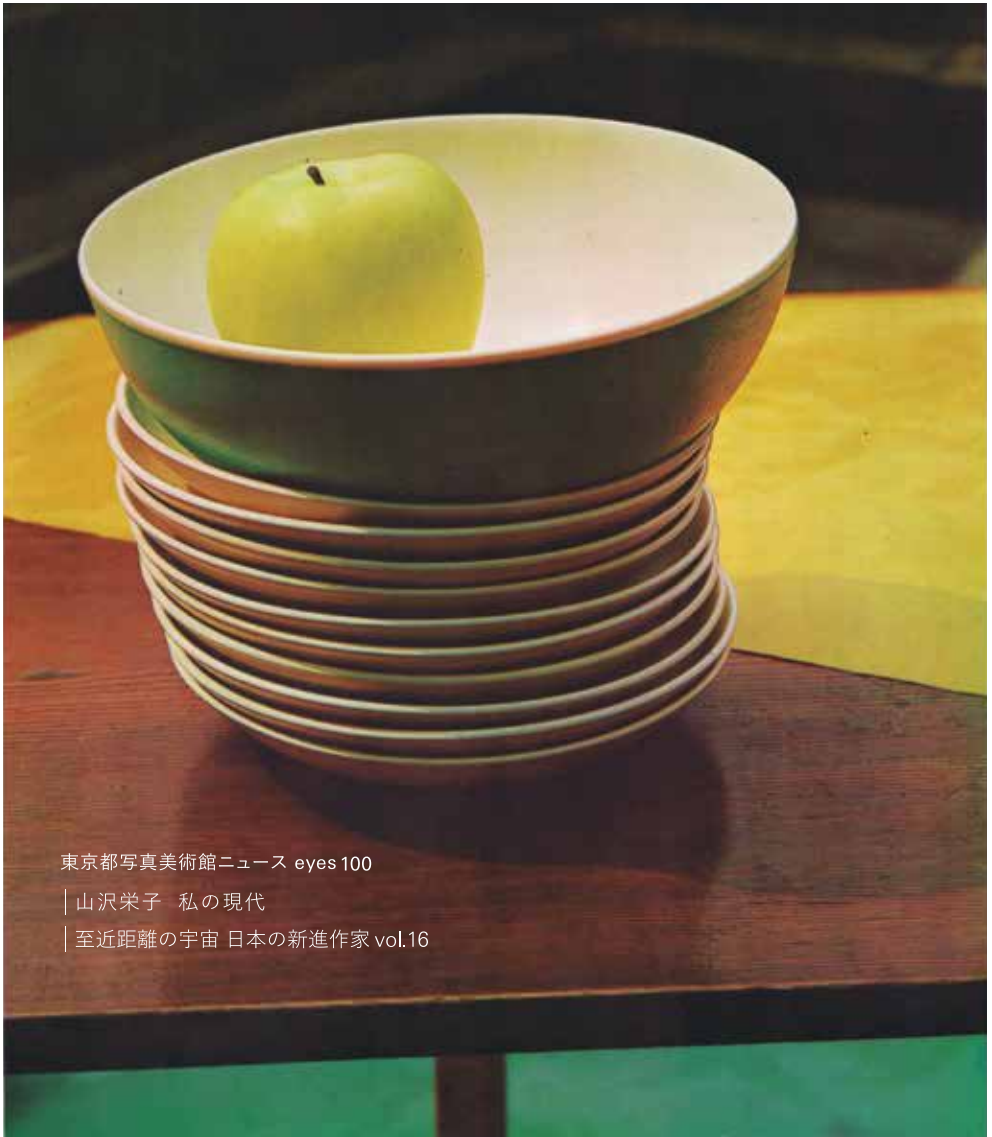


TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース eyes 100

| 山沢栄子 私の現代

| 至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16

What I Am Doing 山沢栄子 私の現代

EIKO YAMAZAWA What I Am Doing

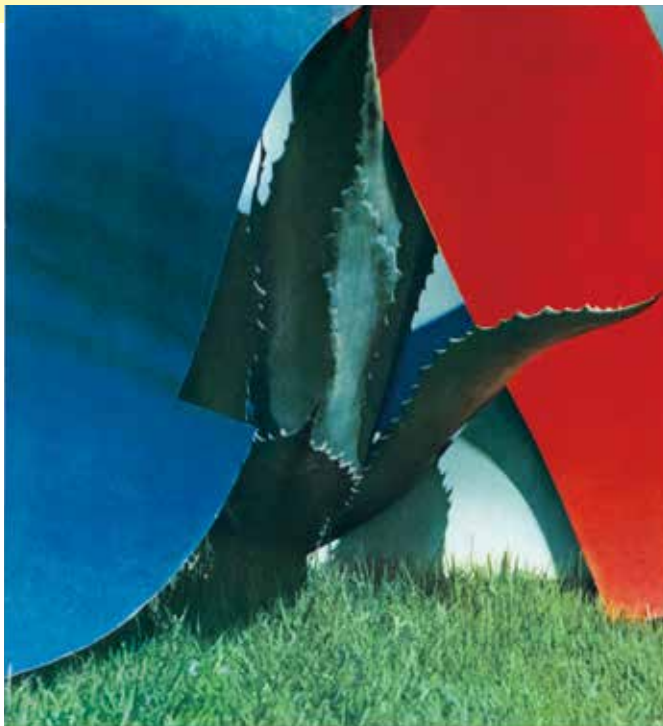
3F 2019.11.12|火| - 2020.1.26|日|

トップのお正月 P11

生誕120年を記念した本展では、1970-80年代に手がけたカラーとモノクロによる抽象写真シリーズ〈What I Am Doing〉を中心に、抽象表現の原点を示す1960年代の写真集、戦前の活動を伝えるポートレートや関連資料などを展示し、写真による造形の実験を重ねることで、独自の芸術表現に到達した作家の歩みを辿ります。

山沢栄子は1899年大阪に生まれ、1920年代のアメリカで写真を学び、1930年代から半世紀以上にわたり、日本における女性写真家の草分けとして活躍しました。当初はポートレートの撮影を主な仕事としていましたが、晩年の1980年代には抽象絵画のような写真作品を制作する作家として知られていました。とりわけカラー写真による色鮮やかな作品群は、当時の日本では他に例を見ないものでした。〈私の現代 / What I Am Doing〉と題して発表されたこのシリーズには、きわめてコンセプチュアルな表現も含まれています。

また、本展ではTOPコレクションから、アルフレッド・スティーグリッツやポール・ストランド、アンセル・アダムス、エドワード・ウェストン、イモジェン・カニンガム、ラルフ・スタイナーほか、ファッション・広告写真のセシル・ビートン、ジョン・ローリングス、ポール・アウターブリッジ・ジュニアらの作品も加えて紹介し、1920年代以降のアメリカ近代写真の状況と山沢への影響を探ります。



〈アブストラクト青と赤〉1960 写真集『遠近』より7色オフセット印刷



〈What I Am Doing No. 8〉1980, プリント1986 銀色素漂白方式印刷 大阪中之島美術館蔵



〈新聞配達少年〉1960 写真集『遠近』よりグラビア印刷

表紙図版 / 〈静物 机、皿、りんご〉1961 写真集『遠近』より オフセット印刷

私は小さいころでもいいから人の役にたいたい。芸術的意欲もそのためにほかならないのではなからうか。人生の道はジグザグだがひとつの美しい目標に向かって行くのだと思う。

(山沢栄子「婦人公論」四一巻九号、一九五六年九月)

わたしはアメリカで覚えた仕方をずっと徹底させていた。写し方も、考え方も変わらなかった。それが今もずっと続いているわけです。精神は変わっていません。光の入れ方はちょっと変わってききましたがね。自分がその時に大きな感動を受けたものは、本当に生涯影響しますね。他の人に習っていたらどうなっていたのか……

(山沢栄子「私は女流写真家 山沢栄子の芸術と自立」ブレイクセンター、一九八三年より)

コンスエロ・カナガとの出会いについて



いろいろな人から影響は受けま
す。ただ自分が好きなものを
持っているから影響を受けるの
であって、持っていなかったら受
けられません。

(山沢栄子「私は女流写真家
山沢栄子の芸術と自立」
ブレイクセンター、一九八三年より)

- 1 〈歩く老婦人〉1955 写真集『遠近』よりグラビア印刷
- 2 〈コンスエロカナガ女史〉1955 ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館

PROFILE 山沢栄子 (1899-1995)

大阪に生まれる。1918年私立女子美術学校日本画科選科を卒業。1926年渡米し、カリフォルニア・スクール・オブ・ファイン・アーツで油絵を学ぶ。同時にアメリカ人写真家コンスエロ・カナガの助手となり、写真技術を習得。1929年帰国、1931年大阪に写真スタジオを開設し、ポートレート写真家として活躍。戦後は企業の広告写真などを手がけたのち、抽象写真の制作を始めた。1968年神戸に移り、1970-80年代に「私の現代」と題した個展を多数開催。1955年大阪府芸術賞、1977年日本写真協会功労賞、1980年神戸市文化賞を受賞。大阪中之島美術館、東京都写真美術館、川崎市市民ミュージアムなどに作品収蔵。

【主催】東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【特別協力】大阪中之島美術館準備室 / 西宮市大谷記念美術館
【観覧料】一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 500(400)円 ※ () は20名以上の団体料金

EIKO YAMAZAWA

What I Am Doing

抽象表現について

写真による表現は、あとかたもなく過ぎ去ってしまった。音のように、空気のように、その方法は抽象的な方向をたどって、私の精神をうごかす。私の造形の行きつくところは未だ確定しないが、それにしても何という鮮明な現実なのだろう。光線の変化で新しい色彩とフォルムが生まれてゆくを見る。人間は感じることで、考えることによって、真理への渴望にひきつけられる。私の現代はその刻印だろうか。

(山沢栄子『私の現代』山沢写真研究所、一九七六年より)



《夏の静物》1960 写真集『遠近』より7色オフセット印刷



- 1 仔犬) 1958 写真集『遠近』より
グラビア印刷
- 2 《What I Am Doing No. 24》1982,
プリント1986 銀色素漂白方式印画
大阪中之島美術館蔵
- 3 《What I Am Doing No. 85》1986
ゼラチン・シルバー・プリント
大阪中之島美術館蔵

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

イメージの洞窟 意識の源を探る

from the cave

2F 2019.10.1|火|-11.24|日|

本展は、古代の洞窟壁画に始まり現在に至るまで、さまざまな作品表現の源泉となっている「洞窟」をモチーフとした写真と映像の作品から、わたしたちのイメージや認識の作られ方を考察します。

沖縄のガマ(洞窟)を現代の技術で視覚化したオサム・ジェームス・中川のインスタレーション、身体や存在そのものが洞窟だと想起させる北野謙の乳児のフォトグラム、イメージが洞窟のように複雑に構成されているゲルハルト・リヒターの近作群など、33点を展示します。あなたもイメージの洞窟に入ってみませんか。



フィオナ・タン《近い将来からのたより》2003年
ビデオ・プロジェクション 作家蔵
©Fiona Tan, courtesy of Wako Works of Art

関連イベント

北野謙〈未来の他者〉プロジェクト

出品作家の北野謙さんと一緒に赤ちゃんのフォトグラム作品を共同制作します。

[日時] 2019.11.4(月・振休) 10:30-14:30、2019.11.16(土) 13:00-18:00
[講師] 北野謙(出品作家) [対象] 生後2~8ヶ月の乳児と保護者の2人1組
[定員] 10組 事前申込み制 応募多数の場合は抽選
[参加費] 無料 [申込締切] 2019.10.28(月) 詳細はホームページをご覧ください。

|担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。本展チケット(当日消印)をご持参ください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 [協賛] 凸版印刷株式会社/東京都写真美術館支援会
[協力] 東京造形大学/有限会社フォトグラフィーズ・ラボラトリー
[観覧料] 一般 800(640)円/学生 700(560)円/中学生・65歳以上 600(480)円 ※()は20名以上の団体料金

TOPコレクション イメージを読む 写真の時間

TOP Collection Reading Images: The Time of Photography

3F 2019.8.10|土|-11.4|月・振休|



米田知子《安部公房の眼鏡―「箱男」の原稿を見る》《Between Visible and Invisible》より 2013年
東京都写真美術館蔵

本展では、写真が持つ時間性と、それによって呼び起こされる物語的要素に焦点を当ててご紹介いたします。写真とは、一瞬の時間を切り取ったものと捉えられるかもしれませんが、しかし、例えば私たちがいる写真を目にする際、そのイメージは記憶の奥深くにまで働きかけ、現在だけでなく、過去や未来、音や匂いといった視覚以外の感覚をも喚起することでしょう。そのようにして、私たちは写真に時間の流れや物語を感じとります。「制作の時間」、「イメージの時間」、「鑑賞の時間」という3つのキーワードから、34作家110点の名作をお楽しみください。

|担当学芸員によるギャラリートーク

2019年10月18日(金)、11月1日(金)※11月1日は手話通訳つき
本展チケット(当日消印)をご持参ください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [協賛] 凸版印刷株式会社
[観覧料] 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中学生・65歳以上 250(200)円 ※()は20名以上の団体料金

至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16

Close-up Universe: Contemporary Japanese Photography vol.16

2F 2019.11.30|土| - 2020.1.26|日|

トップのお正月 P11

「日本の新進作家」は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場として2002年より開催しています。第16回目となる2019年度のテーマは「至近距離の宇宙」です。

一般的に世の中では、家を出ないこと、遠くに行かないこと、広い世界を見ようとしなないことは否定的に受けとられ、様々な国々へ出かける活動的なことは肯定的にとらえられる傾向にあります。その一方、近年では、インターネットで世界の隅々の風景を見ることができ、世界中のものを出かけることなく手に入れることができるほか、VRやホームシアターなどによって家にいながらリアルな臨場感や没入感を持って映像体験ができるなど、どこかに行かずとも何でもできることは、グローバル化とともに人々は積極的に受容しています。本展では、はるか遠い世界に行くのではなく、ごく身近な身の回りに深遠な宇宙を見だし作品を制作する6名の新進作家をご紹介します。

/// 井上佐由紀 (いのうえ さゆき 1974-)

1974年、福岡県生まれ。1997年九州産業大学芸術学部写真学科卒業。主な個展に「私は初めてみた光を覚えていない」(napギャラリー、2018年)等。サンフランシスコ近代美術館に作品が収蔵されている。波をとらえた(Intentionless Creature)、間欠泉を撮影した(over and over)、赤子が生まれて目を開いた瞬間を撮影した(私は初めてみた光を覚えていない)など、「恐れ、畏れ、怖れ」をテーマに独特のタッチでとらえたシリーズを発表。



井上佐由紀「私は初めてみた光を覚えていない」より 2014年

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 [助成] 芸術文化振興基金 [協賛] 凸版印刷株式会社
[観覧料] 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金



齋藤陽道「せかいさがし」より 2019年

/// 相川 勝

(あいかわ まさる 1978-)

1978年、ペルー共和国生まれ。2004年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科メディア芸術コース卒業。主な展覧会に「六本木クロッシング 2010: 芸術は可能か?」展(森美術館 2010年)、「Art Meets02 大西伸明・相川勝」(アーツ前橋、2015年)等。2009年に自身の思い入れのあるCDのパッケージから内容までを絵筆と声により複製した作品(CDs)を発表し注目を集める。近年は、プロジェクターを使用した撮影手法を用い、実在と架空のイメージとその境界をテーマにした作品を発表している。



<Landscape>より 2019年

/// 齋藤陽道 (さいとう はるみち 1983-)

1983年、東京都生まれ。都立石神井ろう学校卒業。「キヤノン写真新世紀」にて2009年佳作、2010年優秀賞受賞。2014年「日本写真家協会賞」新人賞受賞。主な個展に、「宝箱」(ワタリウム美術館2014年)等。主な写真集に2011年「感動」(赤々舎)、2014年「宝箱」(びあ)、そのほかエッセイなど多数出版。あらゆる種別や境界を超えて、身近な人々を被写体とし、真っ直ぐに対象と向き合い撮影した写真を特徴とする。



齋藤陽道「せかいさがし」より 2018年

/// 濱田祐史 (はまだ ゆうじ 1979-)

1979年、大阪府生まれ。2003年日本大学芸術学部写真学科卒業。主な個展「Yuji Hamada」(Galerie f5,6、ミュンヘン、ドイツ 2016年)、「R G B」(PGI 2018年)等。主なグループ展に「The Sun Placed in the Abyss」(コロナバース美術館2016年)等。写真をメディアとして『見る』とはどういうことなのか、『見えない』とはどういうことなのか」という問いかけのもとに撮影、制作する。



濱田祐史「Primal mountain」より 2011年

※作品図版はすべて作家蔵



/// 藤安 淳(ふじやす じゅん 1981-)

藤安淳(empathize)より 2011年

1981年、東京都生まれ。2007年写真表現大学修了。2008年「第1回塩竈フォトフェスティバル写真賞」大賞受賞。2014年「in」(between gallery ShaShin Book Award 2014)優秀賞受賞。主な個展に「empathize」(The Third Gallery Aya、2012-17年)、「KG+SELECT 12 Artists『Sense of Wonder.』」(元淳風小学校、2019年)等。自身が双子としてこの世に生を受けたことで向き合わざるを得ないいくつかの問いを基に、アイデンティティや人間の存在の本質、そして写真における様々な要素について考察しながら撮影、制作する。

/// 八木良太(やぎりょうた 1980-)

1980年、愛媛県生まれ。京都造形芸術大学芸術学部空間演出デザイン学科卒業。2015年「六甲ミーツ・アート大賞」グランプリ受賞。2017年「京都府文化賞」奨励賞受賞。主な個展に、「サイエンス/フィクション」(神奈川県民ホールギャラリー、2014年)「MUSIC FOR LAZY SUSAN」(無人島プロダクション、2018年)等多数。見たいものしか見ない・聞きたいことしか聞かないといった、我々の制限的な知覚システムあるいは態度に対する批判的思考をベースに、既製品を用いて作品を構成し、その現れによって人間の知覚やそれを利用した工学的システムを浮かび上がらせるような作品を制作する。



八木良太《On the Retina》2016年

中野正貴写真展「東京」

Masataka Nakano Photo Exhibition — Tokyo

B1F 2019.11.23|土・祝| - 2020.1.26|日|

トップのお正月 P11

誰も知らない都市の断面。

変貌を続ける世界都市「東京」。2020年オリンピックの舞台となるこの大都市を鋭い感性と巧みな空間把握で30年余にわたり撮影し続ける中野正貴。誰もいない東京の姿を写した『TOKYO NOBODY』、ビルや民家の窓から垣間見たシュールな『東京窓景』、川を漂い水上を浮遊する都市像を捉えた『TOKYO FLOAT』などを発表し話題となりました。本展は“東京三部作”といわれる代表作を中心に、新作・未発表作で構成した集大成展です。本展のために編成された「TOKYO TOWER」や、8×10など大型カメラで撮られた4m超の巨大プリントなど作品約100点によって、巨大都市の変わりゆく表情を中野独自の視点でとらえた「東京」を展覧します。



Higashi-azabu, minato-ku, 2004 ©Masataka Nakano



Ginza, chuo-ku, 1996 ©Masataka Nakano

◎お問い合わせ﴿
株式会社クレヴィス
03-6427-2806
(平日10時~18時)

◎ホームページ﴿
http://www.crevis.co.jp/
exhibitions/

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

【主催】クレヴィス 【共催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
【観覧料】一般 1,000(800)円/学生 800(640)円/中学生・65歳以上 600(480)円 ※()は20名以上の団体料金

写真新世紀 2019 The Exhibition of New Cosmos of Photography

B1F 2019.10.19|土|- 11.17|日|

写真表現の可能性に挑戦する新人写真家の発掘・育成・支援を目的とした公募プロジェクト「写真新世紀」。本年度の第42回公募には1,959名の応募があり、その中から優秀賞7名、佳作14名が誕生しています。東京都写真美術館ではその受賞作品を紹介するほか、昨年度のグランプリ受賞ソン・ニアン・アンの新作を発表します。会期中にはグランプリ選出公開審査会をはじめ、審査員によるレクチャー/トークショーなどを企画しています。奮ってご参加ください。

〈グランプリ選出公開審査会、表彰式〉
2019.11.8(金)審査会14:30~
(開場14:00)1階ホール

〈審査員レクチャー&トークショー〉
2019.11.9(土)1階ホール
第一部14:00~ / 第二部16:00~
第一部 ポール・グラハム
『Mother』出版記念レクチャー
(写真集購入者の方対象のサイン会あり)
第二部 リネケ・ダイクストラ×
サンドラ・フィリップス

〈ポートフォリオレビュー〉
2019.11.10(日)14:00~17:00
1階スタジオ 事前申込制



【主催】キヤノン株式会社 【共催】東京都写真美術館 【観覧料】入場無料 上記イベントの詳細、申し込みは↓こちら！
◎お問い合わせ﴿キヤノン(株)写真新世紀事務局 03-5482-3904 ◎ホームページ﴿ https://global.canon/ja/newcosmos/

関連イベント

作家とゲストによる対談

【日時】2019.12.20(金)

濱田祐史×増田玲(国立近代美術館主任研究員)◎

2019.12.21(土)

齋藤陽道×イ・ラン(映像作家)※手話通訳付きA

2020. 1.12(日) 藤安淳×竹内万里子(批評家)◎

2020. 1.13(月・祝) 井上佐由紀×穂村弘(歌人)◎

2020. 1.18(土) 相川勝×中尾拓哉(美術評論家)◎

2020. 1.25(土) 八木良太×日下部一司(美術家)◎

【会場】A東京都写真美術館1階スタジオ ◎2Fロビー

【定員】各回50名

*当日10時より1階受付にて整理券を配布。番号順入場、自由席。

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップのスタッフとともに、障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

【日時】2019.12.15(日)、2020.1.11(土)10:30-13:00

【対象】どなたでもご参加いただけます。

【定員】各日7名 事前申込制、先着順。【参加費】500円

対話型作品鑑賞会

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。(作品解説ではありません)

【日時】2019.12.5(木)、12.26(木)、2020.1.9(木) 18:30より
本展チケット(当日消印)をご持参ください。

担当学芸員によるギャラリートーク

2019.12.13(金)、27(金)、2020.1.4(土)、5(日)、10(金)、
24(金)の14:00より、2020.1.17(金)18:00より

手話通訳つきギャラリートーク

上記のギャラリートークのうち、下記の日程は手話通訳つきで行います。

【日時】2019.12.27(金)、2020.1.10(金)、1.17(金)。本展
チケット(当日消印)をご持参ください。

託児サービス(有料)

子育て中のお客様に展示会をゆっくりお楽しみいただけるように、下記の日程で託児サービスをご用意致します。

【日時】2019.12.13(金)、2020.1.10(金)13:00-16:00

【利用料金】

お子様1名様につき0~1歳 2,200円、2~6歳 1,100円(税込)

【定員】各日8名程度(お子様の年齢によります)

事前予約制、先着順。

【お問い合わせ・申込】株式会社マザーズ

TEL 0120-788-222までお電話でお申し込みください。

*詳細は当館ホームページでご確認ください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

写真とファッション (仮称)

Photography and Fashion (tentative)

2F 2020.3.3|火|- 5.10|日|

本展覧会では、「写真とファッション」をテーマとし、1990年代以降の写真とファッションの関係性とその変遷を探ります。

写真はこれまで、衣服が持つ魅力を伝えるという重要な役割を担ってきました。

1990年代に入り、ファッション写真という枠組みを超えて、人々に訴えかけるイメージを作り出す写真家や、インディペンデントなスタンスで情報を発信するファッション誌が登場しました。彼らの活動は、人々の考え方や生活スタイルに影響を与え、その後の世代にも繰り返し参照されています。

写真とファッションの関係性は、インターネットが普及した2000年代以降、さらに大きな変化を遂げます。かつては新聞や雑誌の編集者、記者など、限られた人々を介して伝えられていた最新のファッションショーや展示会の様子も、近年ではツイッターやインスタグラムなどSNSを通して、タイムラグなく一般の人々の手元に届けられるようになりました。また、情報を受け取るだけでなく、タグ付けをしたセルフイー(自撮り)に代表されるように、受け手自身も様々な形で情報発信を行っています。

本展覧会は監修に、長年にわたり文化誌『花椿』の編集者としてファッションやアートの世界を見つめてきた林央子氏を迎え、国内外のアーティストによる作品で「写真とファッション」の関係性の変遷を浮き彫りにする試みです。時代のターニングポイントとなった稀少なファッション誌の展示やトークイベントの開催など、様々な角度から写真とファッションをお楽しみください。



1



2



3



4

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
【観覧料】一般 800(640)円/学生 700(560)円/中学生・65歳以上 600(480)円 ※()は20名以上の団体料金

日本初期写真史 関東編

History of Japanese Early Photography
: Kantō District

3F 2020.3.3|火|- 5.24|日|

本展では、関東地方における幕末明治の初期写真文化に着目し、高橋則英(日本大学芸術学部写真学科教授)氏の指導のもと、失われた写真の技術をわかりやすくひもとくと共に、幕末の開港と共に普及し、明治時代に定着する写真文化の潮流を通覧します。

展示は、初期写真の制作技術を解説しながら、それらの技法によって制作された作品をバラエティ豊かに紹介します。侍たちに驚きを持って迎えられた光学的な技術革新である「写真」は、当時の侍たちの姿を鮮明にとらえています。

また、幕末期に日本を訪れた外国人によって、江戸や横浜、横須賀の生き生きとした風景写真が数多く撮影されています。そのほか、日本初の写真館で制作された肖像写真や、日本初の写真家である鴉飼玉川(うかいぎょくせん)の作品をはじめ、関東地方の各地で開業した最初の写真家とその作品を紹介します。

幕末期に始まり、明治期に華開いた関東地方の初期写真文化を、貴重なオリジナルプリントやネガ原板等の作品や、写真器材・道具等の資料から多角的にお楽しみください。

| 担当学芸員によるギャラリートーク **毎週開催**

会期中の**毎週金曜日16:00より**。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。3月20日(金)は手話通訳付きで行います。

| 関連イベント

会期中に関連イベントを開催します。詳細は決定次第ホームページにてお知らせします。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

【主催】東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 美術館連絡協議会

【観覧料】一般 700(560)円/学生 600(480)円/中学生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金



PUGMENT×ホンマタカシ(Image) (仮称)より2016年作家蔵(参考図版) ©PUGMENT, ©Takashi Homma



PUGMENT(1XXX-2018-2XXX)より2018年(撮影:小濱晴美) (参考図版) ©PUGMENT

出品作家

高橋恭司、エレン・フライス×前田征紀、アンダース・エドストローム、PUGMENT、ホンマタカシほか(予定)

1) アンダース・エドストローム(Martin Margiela spring/summer 94)より1993年 作家蔵(参考図版) ©Anders Edström 2) 高橋恭司《Tokyo Girl》(The Mad Broom of Life)より1991-93年 作家蔵(参考図版) ©Kyoji Takahashi, courtesy of nap gallery 3) 前田征紀《智異竜宮山水図》2018年 作家蔵(参考図版) ©Yukinori Maeda, courtesy of Taka Ishii Gallery 4) エレン・フライス(Landscapes)より2019年 作家蔵(参考図版) ©Elein Fleiss

| 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。3月27日(金)は手話通訳つきで行います。

| 関連イベント

会期中に関連イベントを開催します。詳細は決定次第ホームページにてお知らせします。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

第12回恵比寿映像祭

2020.2.7|金|-2.23|日・祝|



第11回恵比寿映像祭オフサイト展示の様子
さわひらき《platter》2019 Photo: Takaaki Arai

恵比寿映像祭は、年に一度、15日間にわたり展示、上映、ライブ・イベント、トーク・セッションなどを複合的に行うアートと映像の国際フェスティバルです。

第12回となる今回のテーマおよび主な出品作家ラインナップは、2019年10月末頃に恵比寿映像祭公式ホームページにて発表します。どうぞご期待ください。

恵比寿映像祭 第12回

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2020

恵比寿映像祭
公式ホームページ

www.yebizo.com

入場無料 ※ 定員制のプログラムは有料

【主催】東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京／日本経済新聞社

1F HALL / 上映

最新の上映スケジュールはこちら▶



1F アピチャッポン・ウィーラセタクン監督2+1

今やカンヌ映画祭の常連であるアピチャッポン監督が、初めてカンヌに正式招待された長編映画『フリスフリー・ユアーズ』と今年になりタイでシナリオが書籍化された監督作『トロピカル・マラディ』に加え、南米コロンビアでの新作撮影を準備すべく、同地を旅した姿にせまる密着ドキュメンタリー『A.W.アピチャッポンの素顔』の3作品を上映します。

【上映期間】2019.11.3(日・祝)、4(月・振休)

【上映時間】ホームページをご確認ください。

【料金】11月3日(日・祝)トークショー付き上映回1,600円、その他の上映回1,300円／各種割引なし



©Photography by Chai Siris

〈お問い合わせ先〉トモ・ズスキ・ジャパン
03-5468-7172
mail@tomosuzuki.com

1F ポーランド映画祭2019

今年には日本・ポーランド国交樹立100周年を記念する年です。8回目を迎える今回は、ポーランド映画祭では初めて上映するアンジェイ・ワイダ監督作品や、近年ポーランドで話題になった新作映画、ポーランドジャズ音楽の第一人者であるクシシュトフ・コメダについての映画など、多種多様なラインナップをお楽しみください。ポーランドを代表する錚々たる顔ぶれの監督が登場するトークショーも予定しています。詳細はホームページをご確認ください。

【上映期間】2019.11.10(日)-11.23(土・祝) 【休映日】2019.11.11(月)、11.18(月)

【上映時間】ホームページをご確認ください。

【料金】当日券：一般1,500円、シニア1,100円、大学生・高校生・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,000円／各種割引あり



オフィシャルサイト
<http://www.polandfilmfes.com/>

1F 水と砂糖のように

イタリア映画批評家協会賞 最優秀ドキュメンタリー賞

ヴィスコンティ『揺れる大地』、ロッセリニ『戦火のかなた』、デ・シーカ『自転車泥棒』、アントニオニ『欲望』、ウッディ・アレン『ハンナとその姉妹』……そこに彼がいた!

映画史上の功績を讃え「カルロ・ディ・パルマ賞」と命名されたヨーロッパ映画賞撮影賞。本作はこの類いまれな撮影監督についての、知的な、深みのある、なによりも愛にあふれたドキュメンタリー。単に伝説的なひとりの撮影監督の伝記にとどまらぬ、映画黄金時代の核心に迫る感動的な旅である。

【上映期間】2019.11.30(土)-12.7(土) 【休映日】12.2(月)

【上映時間】ホームページをご確認ください。

【料金】当日券：一般1,800円、学生・シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,200円／各種割引あり



©2016 ACEK s.r.l

〈お問い合わせ先〉
株式会社オンリー・ハーツ
03-3234-5105
オフィシャルサイト
<http://mizusato.onlyhearts.co.jp>

各種割引

以下の方は当日料金が割引になります。
当館年間パスポート提示、当館での展覧会・映画の半券提示、MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)提示、JREカード(アトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)提示、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート提示
上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

トップのお正月

新年二〇二〇年は一月二日
十時より開館いたします

1月2日(木)・3日(金)は 2階・3階展示室のご観覧が無料!

無料でご観覧いただける展覧会

3階「山沢栄子 私の現代」展

(本誌1ページ)

2階「至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16」展

(本誌5ページ)

B1階「中野正貴写真展」および1F上映は
通常料金となります。

とっぴ雅楽

橘雅友会の雅楽演奏と楽しい
トークで初春をお祝します。

2020年1月4日(土)・5日(日)
13:00 / 15:00

2Fロビー、鑑賞無料、各回約20分



担当学芸員によるギャラリートーク

「山沢栄子 私の現代」展
2020年1月3日(金)14:00～3F展示室

「至近距離の宇宙
日本の新進作家 vol.16」展
2020年1月4日(土)、5日(日)14:00～
2F展示室

トップのオリジナルグッズを プレゼント!

2020年1月2日(木)・3日(金)
※各日先着100名様

毎年好評の福袋も予定しています。
詳細は決定次第
ホームページでお知らせします。

【年始の開館時間】

2020年1月2日(木)～5日(日)
10:00～18:00(入館は閉館の30分前まで)
※4階図書室は2020年1月5日(日)より
開室します。

【年末年始の休館日】

2019年12月29日(日)～
2020年1月1日(水・祝)と1月6日(月)

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》
 キヤノン(株)
 (株)資生堂
 全日本空輸(株)
 (株)ニコン

《賛助会員》
 キヤノンマーケティングジャパン(株)
 ゲッティイメージズジャパン(株)
 大日本印刷(株)
 東急建設(株)
 凸版印刷(株)
 富士フィルム(株)
 (株)リコー

《特別支援会員》
 アサヒグループホールディングス(株)
 サッポロ不動産開発(株)
 サッポロホールディングス(株)

《支援会員》
 (株)アール&キャリア
 (株)I&S BBDO
 あいおいニッセイ同和損害保険(株)
 アオネオン(株)
 (株)浅沼商会
 旭化成(株)
 朝日新聞社
 (株)朝日新聞出版
 朝日生命保険(株)
 (有)アスペン/POLARIS
 (株)アマナ
 (株)岩波書店
 (株)潮出版社
 (株)栄光社
 (株)エージービー
 (株)ADKクリエイティブ・ワン
 (株)NHKアート
 NHK営業サービス(株)
 (株)NHKエデュケーション
 (株)NHKエンタープライズ
 (株)NHKグローバルメディアサービス
 (株)NHK出版
 (株)NHKテクノロジーズ
 (株)NHKビジネスクリエイティブ
 エルメス財団
 オリンパス(株)
 (株)オンワードホールディングス
 カールツァイス(株)
 花王(株)
 加賀電子(株)
 鹿島建設(株)

(株)KADOKAWA
 カトーレック(株)
 神奈川新聞社
 カメラショップ(株)
 (株)かんぽ生命保険
 (株)キクチ科学研究所
 (株)キタムラ
 キューマン(株)
 (株)紀伊國屋書店
 ギャラリー小柳
 共同印刷(株)
 (一社)共同通信社
 空港施設(株)
 (株)久米設計
 グローリー(株)
 (株)ケー・アンド・エル
 ケンコー/トキナー/スリック
 興亜硝子(株)
 (株)弘亜社
 (株)廣済堂
 (株)講談社
 (株)光文社
 (株)国書刊行会
 (株)コスモインターナショナル
 (株)コーセー
 コダック(同)
 コダックアラリスジャパン(株)
 小山登美夫ギャラリー(株)
 三愛石油(株)
 三機工業(株)
 産経新聞社
 サントリーホールディングス(株)
 (株)サンライズ
 (株)ジェイアール東日本企画
 JSR(株)
 JXTGホールディングス(株)
 (株)JT
 ジェイティービー印刷(株)
 (株)シグマ
 (株)実業之日本社
 信濃毎日新聞社
 清水建設(株)
 (株)写真弘社
 写真の学校/東京写真学園
 チャンネル(同)
 (株)集英社
 シュッピン(株)
 (株)小学館
 城西国際大学メディア学部
 松竹(株)
 信越化学工業(株)
 (株)新潮社
 (株)スタジオアリス
 (株)スタジオエムジー

(株)スタジオジブリ
 (株)SUBARU
 住友化学(株)
 住友生命保険(株)
 (株)生活の友社
 セイコーホールディングス(株)
 双日(株)
 ソニー(株)
 損害保険ジャパン日本興亜(株)
 第一生命保険(株)
 第一法規(株)
 (一社)共同ビルサービス
 台新国際商業銀行
 大成建設(株)
 (株)大丸松坂屋百貨店
 大和証券(株)
 (有)タカ・イシイギャラリー
 高砂熱学工業(株)
 (株)高島屋
 (株)宝島社
 (株)竹中工務店
 玉川大学芸術学部
 (株)タムロン
 (株)丹靑社
 (株)中央公論新社
 中外製薬(株)
 帝人(株)
 (株)TBSテレビ
 デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
 (株)テレビ朝日
 (株)テレビ東京
 電源開発(株)
 (株)電通
 東亜建設工業(株)
 東映(株)
 東急(株)
 東京海上日動火災保険(株)
 (株)シグマ
 東京工科大学/日本工学院
 東京工芸大学
 東京新聞・中日新聞社
 (株)東京スタディオ
 東京造形大学
 東京総合写真専門学校
 東京建物(株)
 東京地下鉄(株)
 東京テアトル(株)
 東京都競馬(株)
 (株)東京ドーム
 (株)東京ニュース通信社
 (学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
 (株)東京美術倶楽部

東京メトロポリタンテレビジョン(株)
 (株)東芝
 東宝(株)
 (株)東北新社
 (株)東洋経済新報社
 (株)トキワ
 (株)徳間書店
 戸田建設(株)
 トヨタ自動車(株)
 (株)トロンマネージメント
 (株)ダイケンビルサービス
 日油(株)
 日活(株)
 (株)日経BP
 日光ケミカルズ(株)
 日産自動車(株)
 (株)日本カメラ社
 日本空港ビルデング(株)
 (株)宝島社
 日本航空電子工業(株)
 (株)日本廣告社
 (公社)日本広告写真家協会
 (株)丹靑社
 日本写真印刷コミュニケーショングループ(株)
 (公社)日本写真家協会
 (株)日本写真協会
 日本写真芸術専門学校
 (一社)日本写真文化協会
 日本生命保険(株)
 日本大学芸術学部
 (株)日本デザインセンター
 日本テレビ放送網(株)
 (株)ニッポン放送
 日本レコードマネージメント(株)
 日本ロレックス(株)
 (株)ニューアートディフュージョン
 野村證券(株)
 (株)博報堂
 (株)博報堂DYメディアパートナーズ
 (株)博報堂プロダクツ
 (株)ハースト婦人画報社
 (株)ハーツ
 パナソニック(株)
 (株)パラゴン
 ぴあ(株)
 ビービーメディア(株)
 北海道 写真の町東川町
 東日本旅客鉄道(株)
 光写真印刷(株)
 (株)ピクトリコ

(株)美術出版社
 (株)ビックカメラ
 (株)ピラミッドフィルム
 (株)ファーストリテイリング
 (株)フェドラ
 (株)フォトメディア
 (株)フジテレビジョン
 (株)フジヤカメラ店
 (株)ブラザークリエイト
 (株)プリンスホテル
 (株)フレイムマン
 プロフォト(株)
 (株)文化工房
 (株)文藝春秋
 北海道新聞社
 (株)ホテルオークラ東京
 (株)堀内カラー
 本田技研工業(株)
 毎日新聞社
 (株)マガジンハウス
 丸善(株)
 マルミ光機(株)
 (株)マンダム
 (株)みずほ銀行
 三井住友海上火災保険(株)
 三井倉庫ホールディングス(株)
 三井不動産(株)
 (株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
 三菱地所(株)
 三菱製紙(株)
 三菱倉庫(株)
 三菱UFJ信託銀行(株)
 (株)ミルボン
 武蔵大学
 明治安田生命保険(株)
 森ビル(株)
 ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
 (株)吉野工業所
 (株)ヨドバシカメラ
 読売新聞社
 ライオン(株)
 ライカカメラジャパン(株)
 リコーイメージング(株)
 リシュモン ジャパン(株)
 モンブラン
 (株)良品計画
 (株)ロバット
 (株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
 (株)ワコール

2F SHOP
 ミュージアム・ショップ

NADIFT
 BAITEN

展覧会関連書籍はもちろん、季節のグッズも充実のミュージアムショップ。2020年のカレンダー、ダイアリーも販売中!
 中でも毎年人気のTriangularは、12ヶ月+2ヶ月(2021年1月・2月)が1枚に収まったカレンダー。ミシン目に沿って三角に巻くことで、常に3ヶ月分の日付を確認することができます。

Re+g Triangular 820円(税抜)



営業時間/10:00-18:00(木・金は20:00まで) TEL/03-6447-7684
 定休日/毎週月曜日、年末年始 ほか
 (美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

1F CAFE
 カフェ

MAISON ICHI
 BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)

本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,200円
 季節のラザニア(自家製パン付き) 1,200円
 自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます
 自家製サンド 445円~ キッシュ各種 480円
 スペルト小麦の田舎パン 1/4サイズ 399円 ホール1,500円
 自家製レモンシロップのレモネード 445円
 タピオカミルクティー各種 480円
 ジュース・アルコール類もあります。
 メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税抜)





営業時間/10:00-19:00(木・金は20:00まで) TEL/03-6277-3862
 定休日/毎週月曜日、年末年始 ほか
 (美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人 (令和元年9月現在・五十音順)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2019 10	TOPコレクション イメージを読む 写真の時間 収	イメージの洞窟 意識の源を探る 企	写真新世紀 2019	アピチャップン・ ウィーラセタクン監督2+1 11.3(日・祝)・11.4(月・振休)
11	8.10(土) - 11.4(月・振休)	10.1(火) - 11.24(日)	10.19(土) - 11.17(日)	
12	山沢栄子 私の現代 収	至近距離の宇宙	中野正貴写真展	ポーランド映画祭2019 11.10(日) - 11.23(土・祝)
2020 1	11.12(火) - 2020.1.26(日)	日本の新進作家 vol.16 企	「東京」 11.23(土・祝) - 2020.1.26(日)	水と砂糖のように 11.30(土) - 12.7(土)
2	第12回恵比寿映像祭 2.7(金) - 2.23(日・祝)			
3	日本初期写真史 関東編 収 3.3(火) - 5.24(日)	写真とファッション(仮称) 企 3.3(火) - 5.10(日)	APA AWARD 2020 2.29(土) - 3.15(日) 白川義員写真展 永遠の日本(仮称) 収 3.20(金・祝) - 5.17(日)	
	「ぐるっとパス 2019」の 詳細はこちら▶ 		収 収蔵展 企 企画展 年間パスポートの詳細はこちら▶ 	

東京都写真美術館は開館25周年を迎えます

2020年1月21日(火)
開館記念日は2階・3階が
無料でご観覧いただけます

当館は1990年の一次施設開館を経て、1995年1月21日、恵比寿ガーデンプレイス内にグランドオープンしました。わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、これからも多くのお客様をお迎えし、広く写真・映像文化に親しんでいただける美術館をめざしてまいります。

割引料金について

割引対象

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

- 1.20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引
- 2.各種会員の方 観覧料が2割引
 - JRE CARD(2018年7月2日にアトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)
 - MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
 - ウェルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
 - 当館映画鑑賞券提示者
 - 財団他館友の会、年間パスポート会員
 - JR東日本「大人の休日倶楽部」カード
- 3.親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続き日曜日が対象) 観覧料が5割引
 - 都民で18歳未満のお子様を連れてご家族が対象です。 ※詳しくはお問い合わせください。

無料対象

展覧会を無料でご観覧いただけます

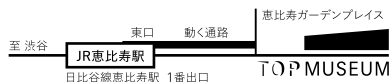
- 1.□小学生以下
 - 障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 東京都内在住・在学の中学生

※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要でです。当館までお問い合わせください。

- 2.シルバーデー(毎月第3水曜日)
 - 65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要でです

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで)、ただし、2020年1月2日(木)・3日(金)は18:00まで開館。入館は閉館30分前まで。
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)、2019年12月29日(日) - 2020年1月1日(水・祝)、2020年1月27日(月) - 2月6日(木)、2020年2月24日(月) - 2月28日(金)

東京都写真美術館ニュース「アイズ19」100号 □発行日:2019年10月17日 / 企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 □印刷・製本:株式会社公社社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2019 □本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

文化でつながる。未来につながる。
TokyoTokyo
FESTIVAL